

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009年度

課題番号：18520544

研究課題名（和文） 1949年中国革命前後の政治変動と地方行財政に関する史的研究

研究課題名（英文） Historical Study of Political Change and Local Administration and Finance in China before and after the 1949 Revolution

研究代表者

金子 肇

下関市立大学・経済学部・教授

研究者番号：70194917

研究分野：中国近代史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中華民国、中華人民共和国、地方行財政、1949年革命、地域

1. 研究計画の概要

地方行財政に視点をすえ、1949年前後の中国における政治的変動を地域・地方の実態から実証的に掘り下げていくことを主要な目的とする。

研究計画を実施するに際して、とくに留意する方法的な見地は以下の2点である。

- (1) 都市と農村の変容を総合的に把握することにより、49年革命前後の政治的変動を明らかにする。
- (2) 地方行財政政策の目的や実施実態を当時の人々が如何に認識していたのか、という点に留意する。

2. 研究の進捗状況

1949年前後の政治的変動に関する史料として、3人のメンバーは、これまでの3年間連続して四川省档案馆（平成18年度）と上海档案馆（19・20年度）で档案（公文書史料）を収集した。また、関連するマイクロフィルム史料（戦後国民党上海市政府の档案史料、人民共和国成立後の中央政府と上海における税務関連档案史料）を購入した。

研究代表者の金子は、1949年革命前後の中華民国から中華人民共和国に移行する統治体制の変容について研究成果を公表するとともに、49年前後の政治的変動を近代中国史の長期的なパースペクティブのなかで把握するため、本研究計画の対象時期から時代を遡らせて、清朝末期・北京政府期から戦後期にまで至る国家統合と中央・地方関係について成果を公刊した。

研究分担者（20年度から連携研究者）の笹川裕史は、49年革命前後の国民党政権と共産党政権の食糧徴発能力を比較・検討し、政策

志向上の連続性があるものの、共産党が格段に強い農村収奪能力を有していたことを明らかにし、また日中戦争期の総力戦体制の構築が農村社会に及ぼした政治的・社会的影響を、49年前後の変化に留意しながら解明する著作を公刊した。

また、同じく研究分担者（20年度から連携研究者）である水羽信男は、中小商工業者層の動向を反映した団体として民主建国会を分析し、三反五反運動から社会主義改造に向かう共産党の都市商工業者の政策に関する同会の認識を明らかにし、またリベラリスト（知識人）の活動が49年革命前後の中国政治に与えた思想的インパクトについて専著を公にした。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に伸展している。

（理由）

研究代表者と研究分担者（連携研究者）2名それぞれが、研究計画に即して1949年革命前後の政治変動と地方行財政に関する成果を各年度着実に公表してきたため。ただし、都市の行財政政策に関する档案史料の量が予想以上に膨大であるため、その収集・整理に手間取っている。

4. 今後の研究の推進方策

引き続き、各メンバーの役割分担に基づき史料収集と成果の公表を行っていく。都市行財政政策に関する档案史料については、上述のように調査すべき量が膨大であるが、最終年度には少なくとも計画実施期間中に収集してきた史料の整理を完了させる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

①金子肇「国共内戦下の立法院と1947年憲法体制」(『近きに在りて』第53号、査読なし、2008年、2～15頁)

[学会発表] (計9件)

①金子肇「從訓政到憲政：向民主統治形態的過渡」(南京大学中華民国史研究中心・民国史論の会共催「中日学者民国史研究論壇」、2009年3月29日、南京大学)

[図書] (計4件)

①金子肇、汲古書院『近代中国の中央と地方—民国前期の国家統合と行財政—』2008年、382頁

②水羽信男、東方書店『中国近代のリベラリズム』2007年、232頁

③笹川裕史・奥村哲、岩波書店『銃後の中国社会—日中戦争下の総動員と農村—』2007年、272頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

○取得状況 (計 件)

[その他]